『動物の境界』序説
―狩猟採集民グイの談話分析より―

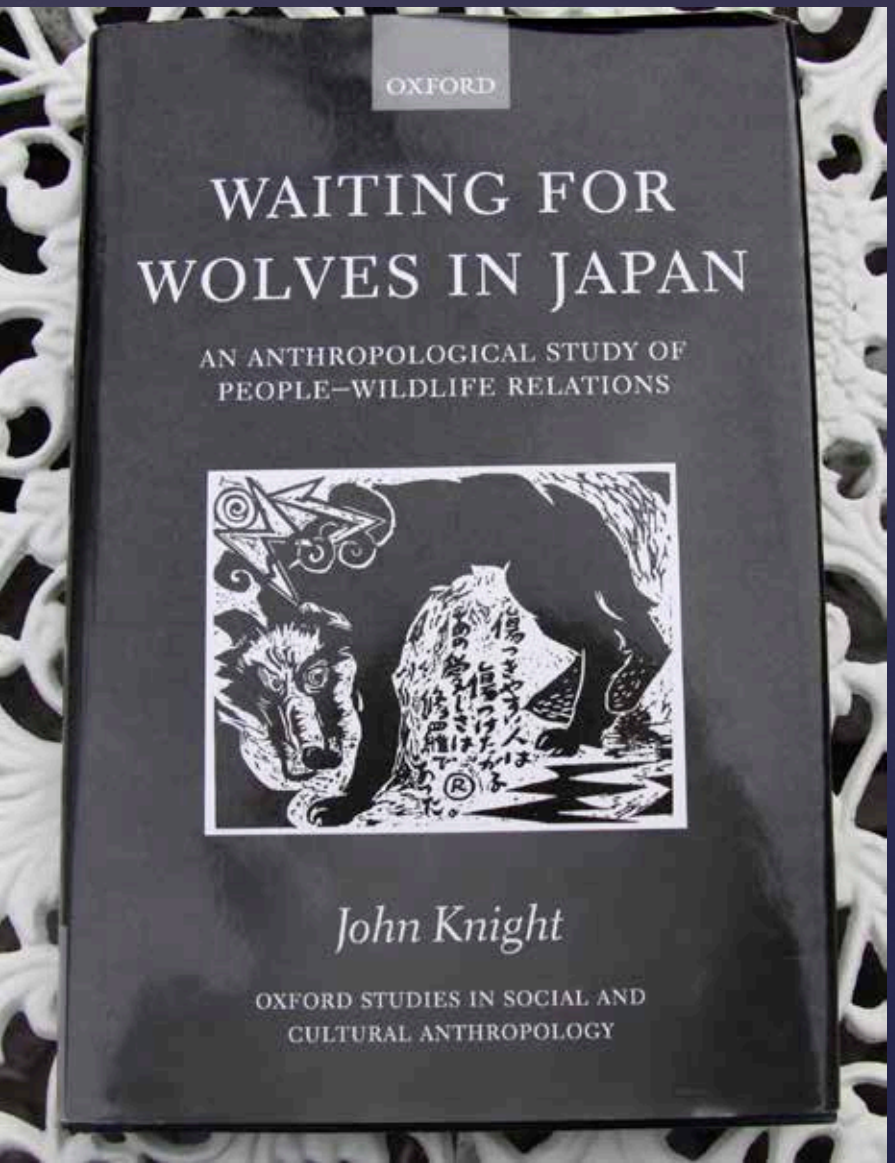
菅原和孝

京都大学大学院人間・環境学研究科

kazuyoshi.sugawara@gmail.com

視点と方法

1　動物の境界



a）人間と動物の境界の
　　再確定／更新

b）動物を契機にして、人間の
　　あいだに境界が張られる

イノシシに田畑をズタズタにされる。

「イノシシなんて根絶やしにしてしまえ！」
「あの自然保護の連中…」
vs
「野生動物を守れ！」
「健全な生態系を維持せよ」

2　現象学的実証主義

◎「天下り」の知識や理論を括弧入れして、私の生活世界に記述を還流させる
私と「かれら」の経験の連続性を探る

◎フィールドにおける直接観察／直接経験に厳密に依拠する（もちろん談話は直接観察される事象の一部）
→「追試」可能性を確保する

◎間身体性：ある行為空間に内属する「仲間」たちに共有されているセンス（意味=感覚=方向づけ）

3　コミュニケーションという概念について

原初形態:　非対称的な注意の方向づけ→「思い籠め」

主体は、他者のふるまいや姿の顕著さに
なんらかの意味（センス）を投射する

本発表でのコミュニケーションの定義:
主体の情報意図が他者に理解されるだろうという期待

[*cf.* Sperber & Wilson 1986; Luhmann 1995]

cf.　コミュニケーションの民俗概念→「相互理解」（疎通）

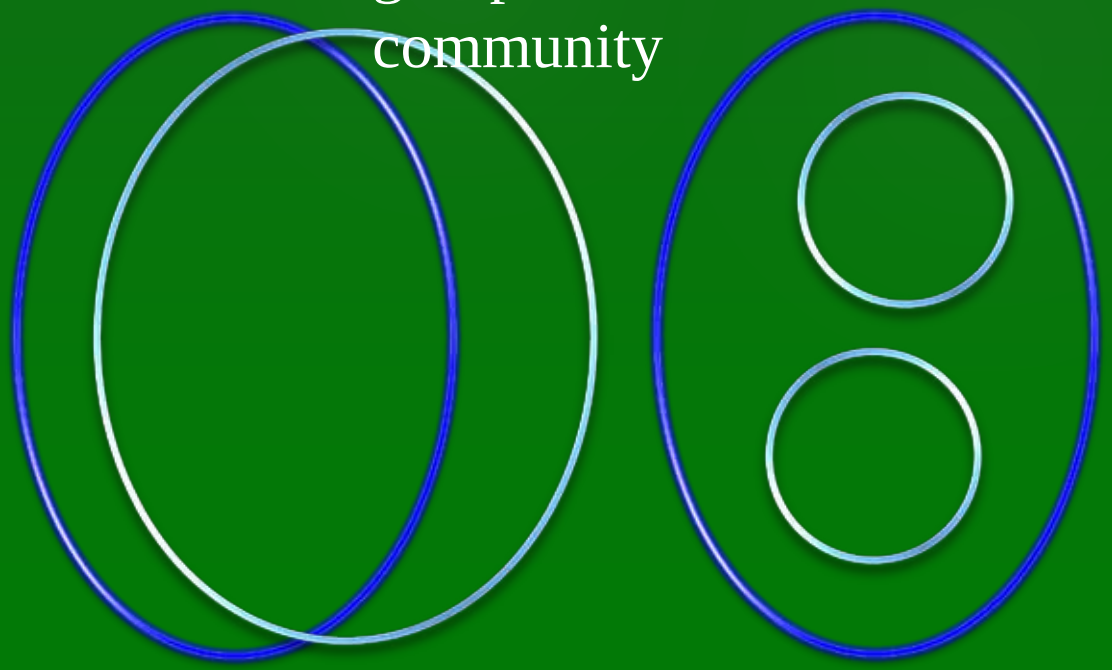
コミュニケーション域

この期待が投げかけられる
外延の不確定な他者たち覆う
仮想空間

隠喩的には「ことばが通じる」他者たちの集合

「耳の孔がある」vs「耳の孔がない」 (ǂ*kée-gyôam hâacìe*)

group/
community



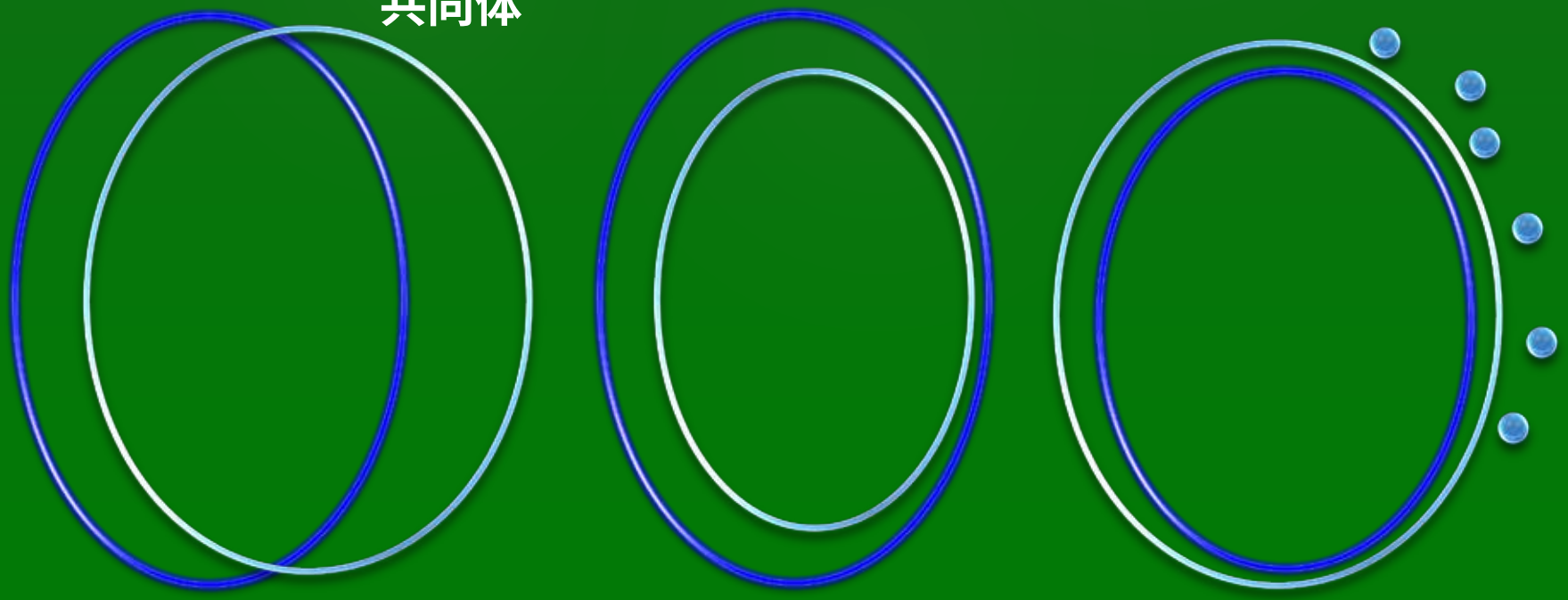
コミュニケーション域

この期待が投げかけられる外
延の不確定な他者たちを覆う
仮想空間

隠喩的には「ことばが通じる」他者たちの集合

「耳の孔がある」vs「耳の孔がない」 (ǂ*kée-gyôam hâacìe*)

共同体

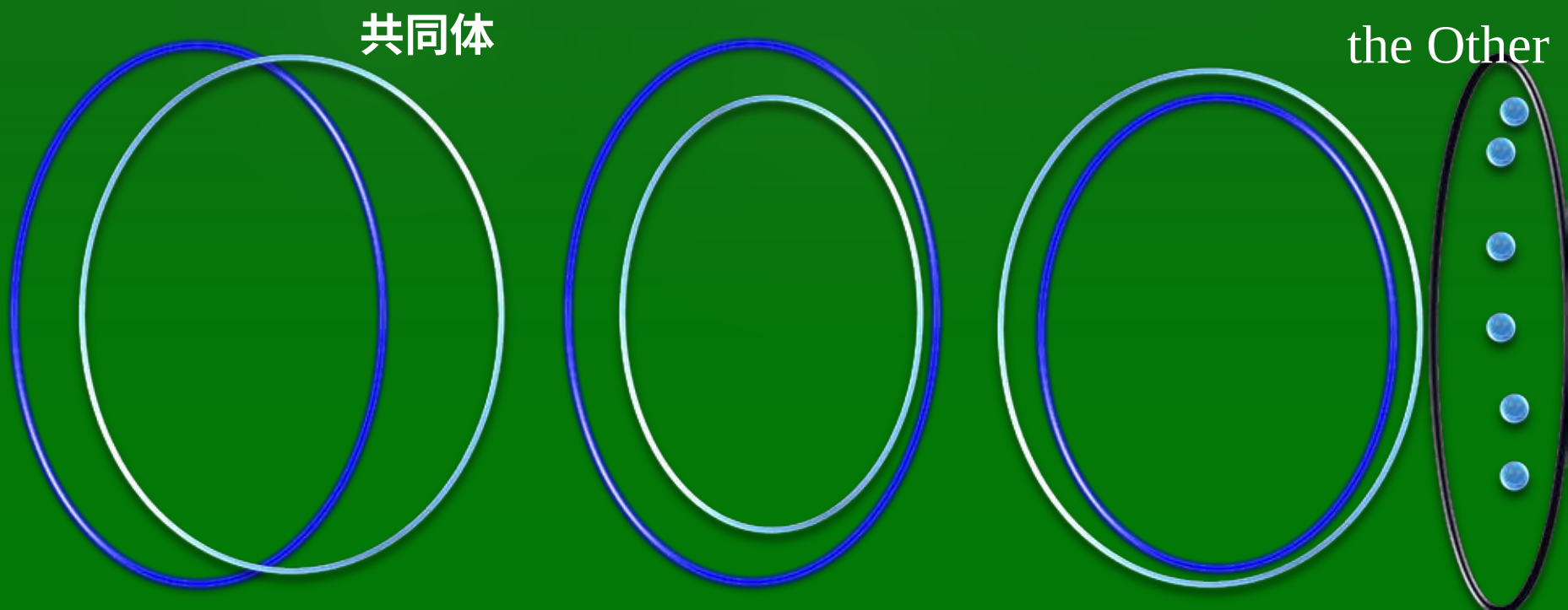


コミュニケーション域

この期待が投げかけられる外
延の不確定な他者たちを覆う
仮想空間

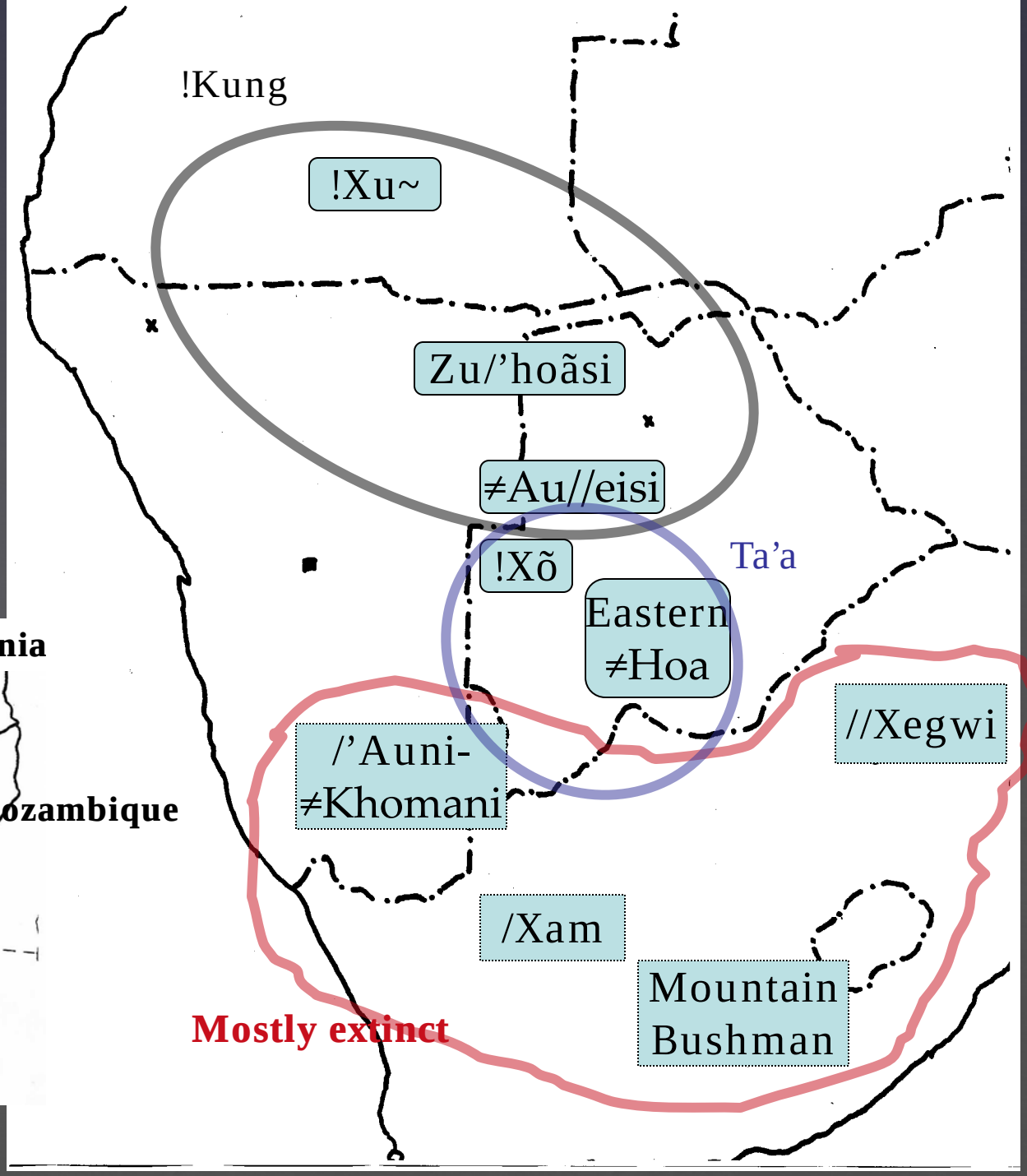
隠喩的には「ことばが通じる」他者たちの集合

「耳の孔がある」vs「耳の孔がない」 (ǂ*kée-gyôam hâacìe*)

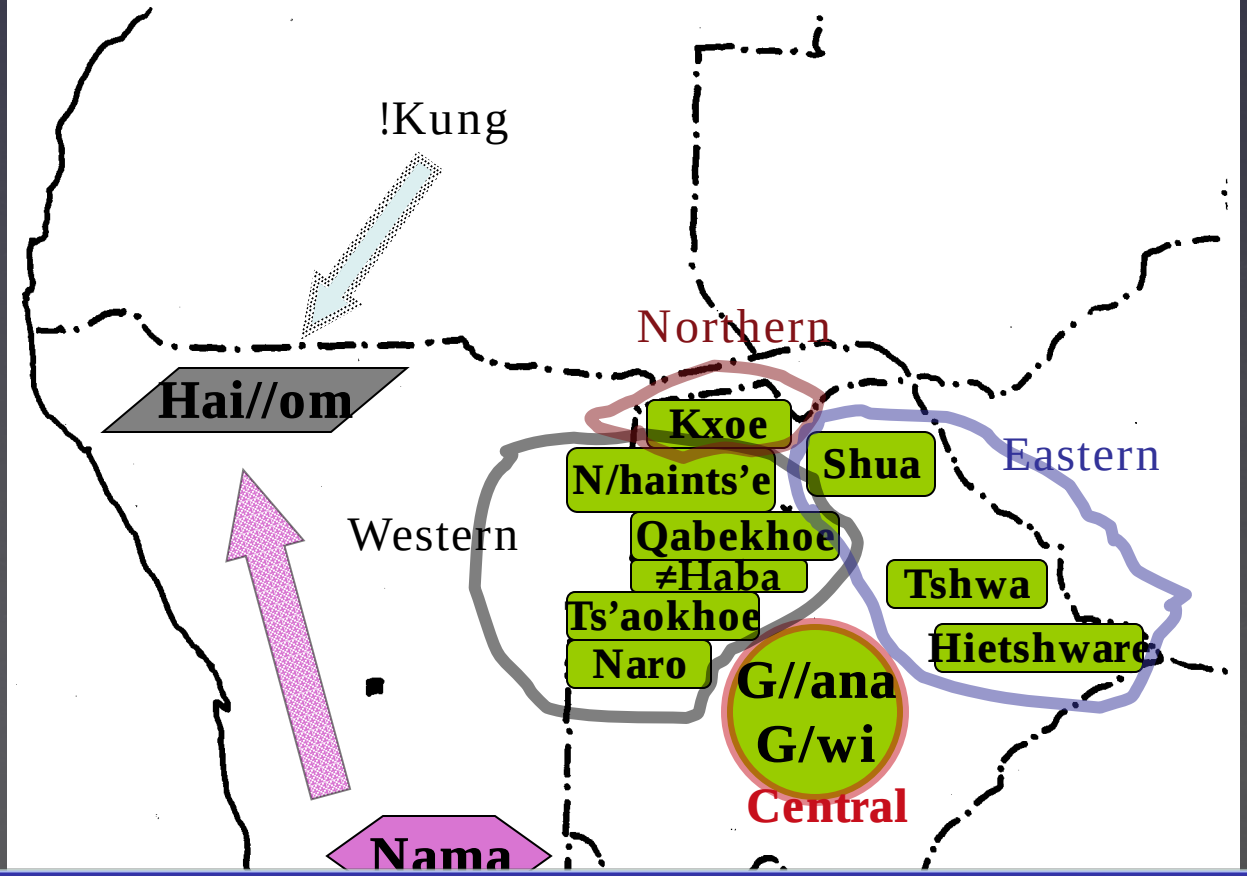


Non-Khoe Speaking Groups

(Modified from: Barnard, A. 1992 *Hunters and Herders of Southern Africa*)



Khô e Speakin Groups



基本文型：

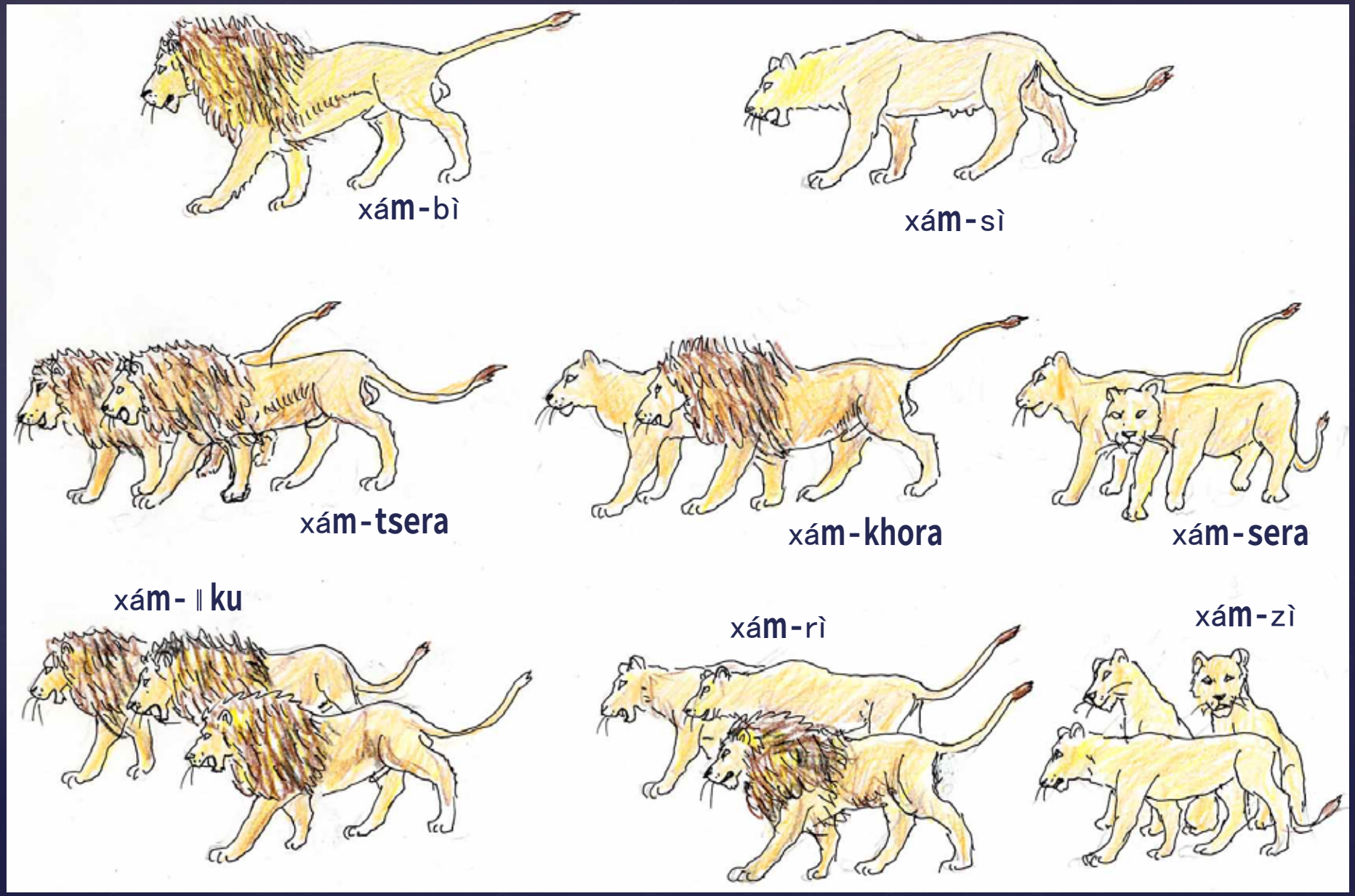
itsibi sii kà itsibi ǁnaõ esa !q'are-m-wà ǀkee-zì mõõ.

PRN 着く PSTP PRN それから PRN 地名-PGN-PSTP オグロヌー-PNG 見る
(1/m/dl/nom) （時点）(1/m/dl/nom) (3/f/sg/acc) -(3/m/sg/gen)-(場所） (3/f/pl/nom)

「俺たち〔男2人〕は着くと、俺たちはそれからそれを、カレの中でヌーたちを見た。」

吸入音 伴奏音	ǀ 歯音	! 歯茎音	ǂ 硬口蓋音	ǁ 側音
g： 軟口蓋有声音	ǀgáã 草	!gâ a 錐	ǂgaa じっとしている る	ǁgâ a 耐え過ごす
k： 軟口蓋無声音	ǀkǎã 大きな袋	!káa 見あたらない	ǂkãã 入る/入れる	ǁkàã 乗る
kh： 軟口蓋有気音	ǀkháa 刺して置く	!khaa 寝かす	ǂkhaa パン（地形）形）	ǁkháa 耕す
nh： 有気/無声鼻音	ǀnhaa 草から探し出す	!nháa 種を取る	ǂnhãã 先に行く	ǁnhám 向こうに
n： 鼻音	ǀnàa 胃、腹	!nãã 器	ǂnáa 罠を見に行く	ǁnãã 角
ʔ： 声門化音	ǀʔâ o 血	!ʔaa 知る、わかる	ǂʔaã 風	ǁʔâ a やっつける
k’： 軟口蓋放出音	ǀk’â o しならせる	!k’aa 腿外側の肉	ǂk’â a 気を失う	ǁk’aa 花
q’： 口蓋垂放出音	ǀq’áa つまんで運ぶ	!q’ãã ジャッカル臭い	ǂq’ái ヤニ	ǁq’áu 大きな獣道
qx’：口蓋垂破擦放出音	ǀqx’áã 水っぽい	!qx’ai 根っこ	ǂqx’ãã 草のかけら	ǁqx’â a 洗う
x： 口蓋垂摩擦音	ǀxáa 肉	!xâ a 下痢する	ǂxáa どかす	ǁxâ a 日が高い
qh： 口蓋垂有気音	ǀqhǎã 陰唇	!qháa 吐き出す	ǂqhâ i 載せ押さえる る	ǁqhâ m 蜘蛛（の巣）
q： 口蓋垂無声音	ǀqã a 谷	!qaõ 注意深い	ǂqâ a 透明である	ǁqàe おろす、けずる る
ɢ： 口蓋垂有声音	ǀɢǒi もてあそぶ	!ɢãã 羽化した白蟻	ǂɢǎã 脾臓	ǁɢái 蛆

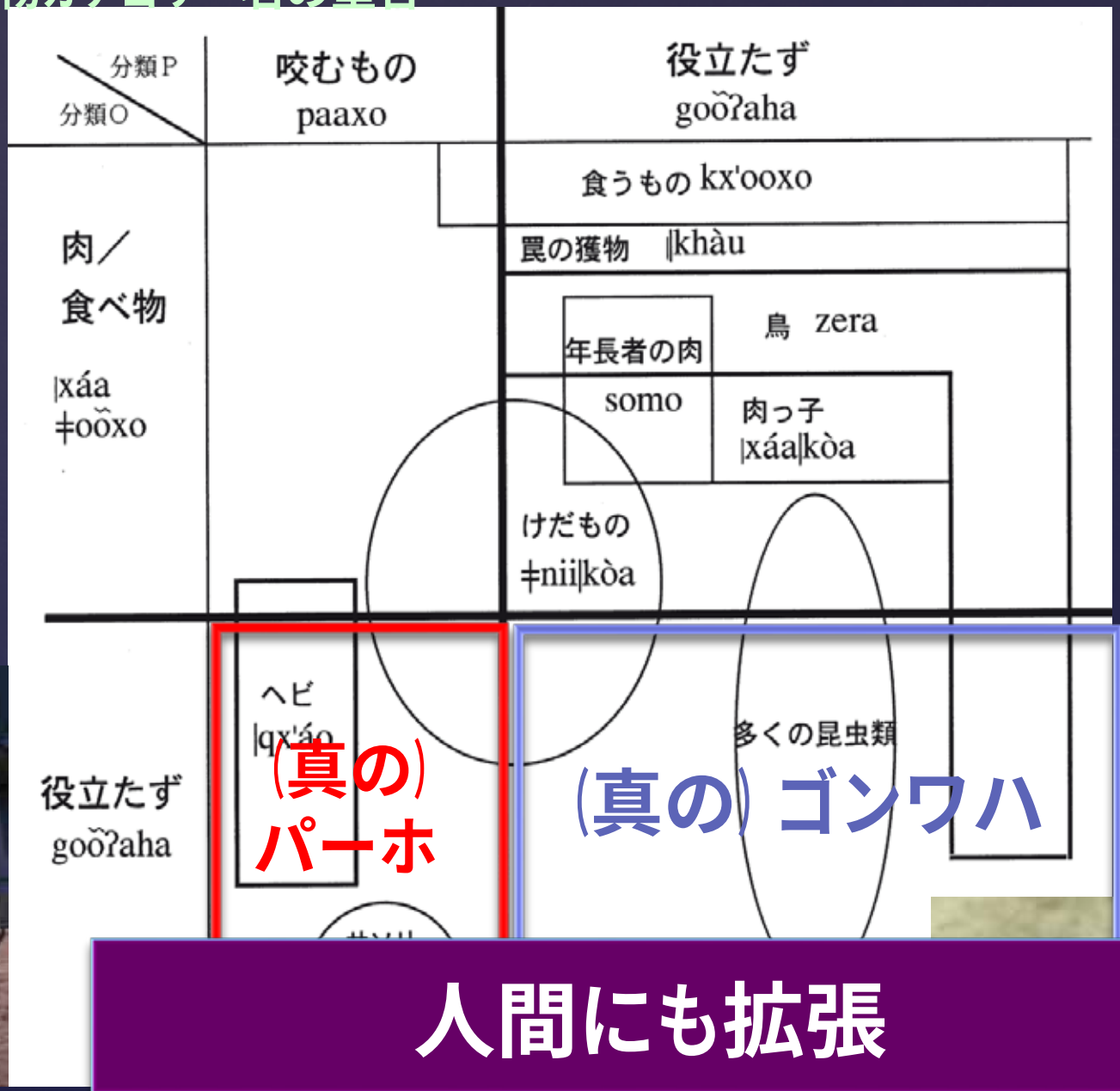
三人称の語尾は性と数を表す接尾辞になる



アフリカ大陸
中央カラハリ動物保護区
再定住地

グイの動物民俗分類：
中川理論と動物カテゴリー名の重合

分類P：咬む／咬まぬ
分類O：食べられる／食べられぬ



人間にも拡張

kx’óoxo「食うもの」：大型偶蹄類６種+中型羚羊１種

ゲムズボック　|xô 0

ウィルデビースト　| kee

ハーテビースト ǁxama

クーズー
gyû a

エランド gyû u

スプリングボック ǂqai

キリン !nā be

動物にコミュニケーション期待を投げかける

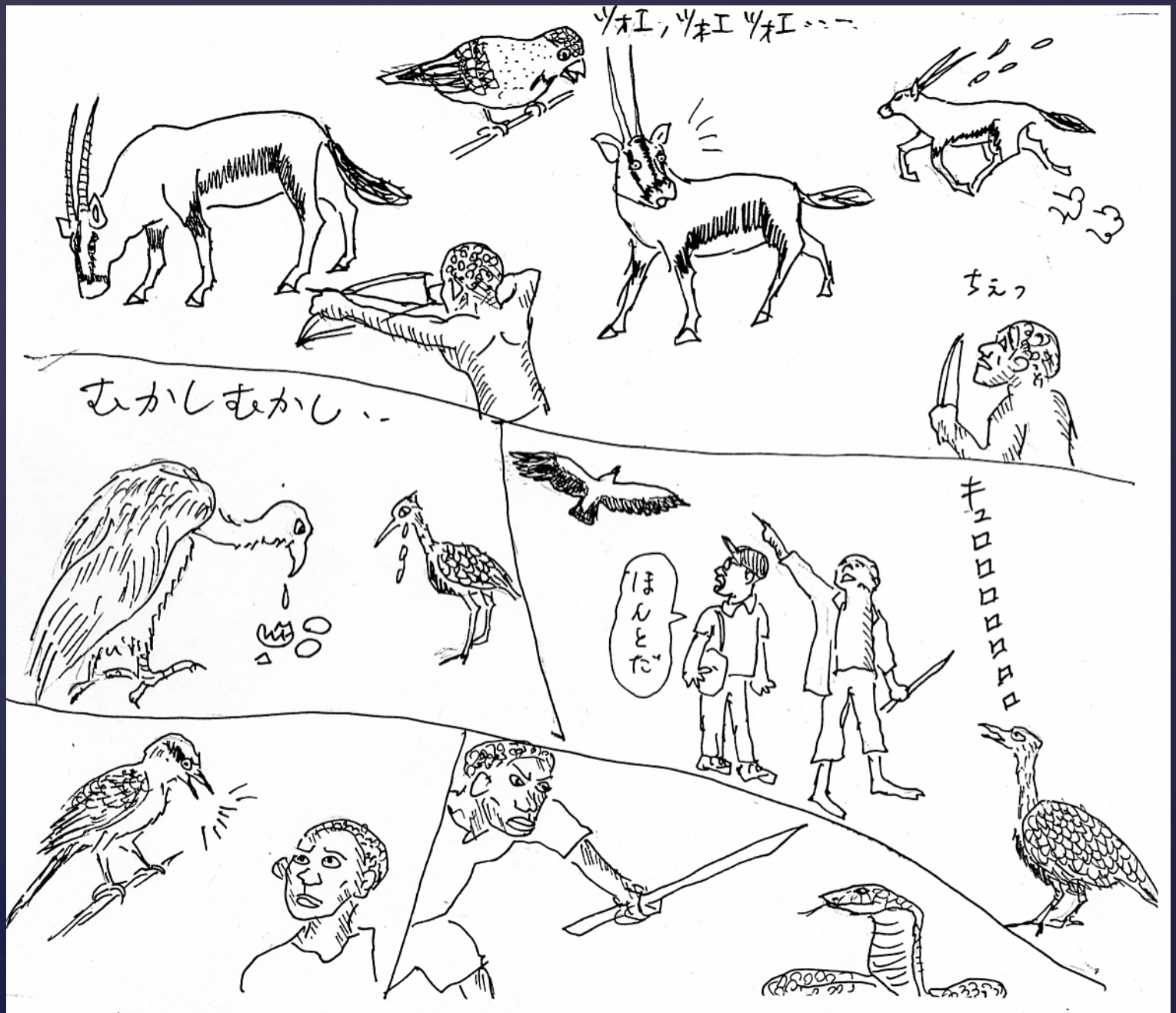
sa llnăi subu, sa lga pii
“ヨタカ、おまえ弱い、ヨタカ、ほら飛べよ”

（この写真だけウェブ上から借用）

ライラックニシブッポウソウ
llkâbaxàmkúzą̆ẽ

ゴーンの燠がおまえの背中に入ったな！
カラの燠がおまえの背中に入ったな！
ガッ、ガー

動物をコミュニケーション域（言語ゲーム）に引きこむ



鳥が告知する

オウカンゲリ da˜i

ハジロアカハラヤブモズ
! khau ǁ gae

キクスズメ　ts’oe˜

ヒガシニシキタイヨウチョウ ǂkâatàmp ǒ o

アカオヤブコマドリ ǀ gènané

神話のなかの鳥たち

キバシコサイチョウ gô ba

コシジロウタオオタカ
!gúutsam‖n ǎ e

クロオウチュウ ǂnháuǂʔàna

ムナジロガラス !kǎa

ツルハシガラス ǁʔo`˜a˜ra˜

アカガタテリムク ǁgǒorí

カンムリショウノガン　!gǎi
と
クロエリノガン ǁkàa の対決

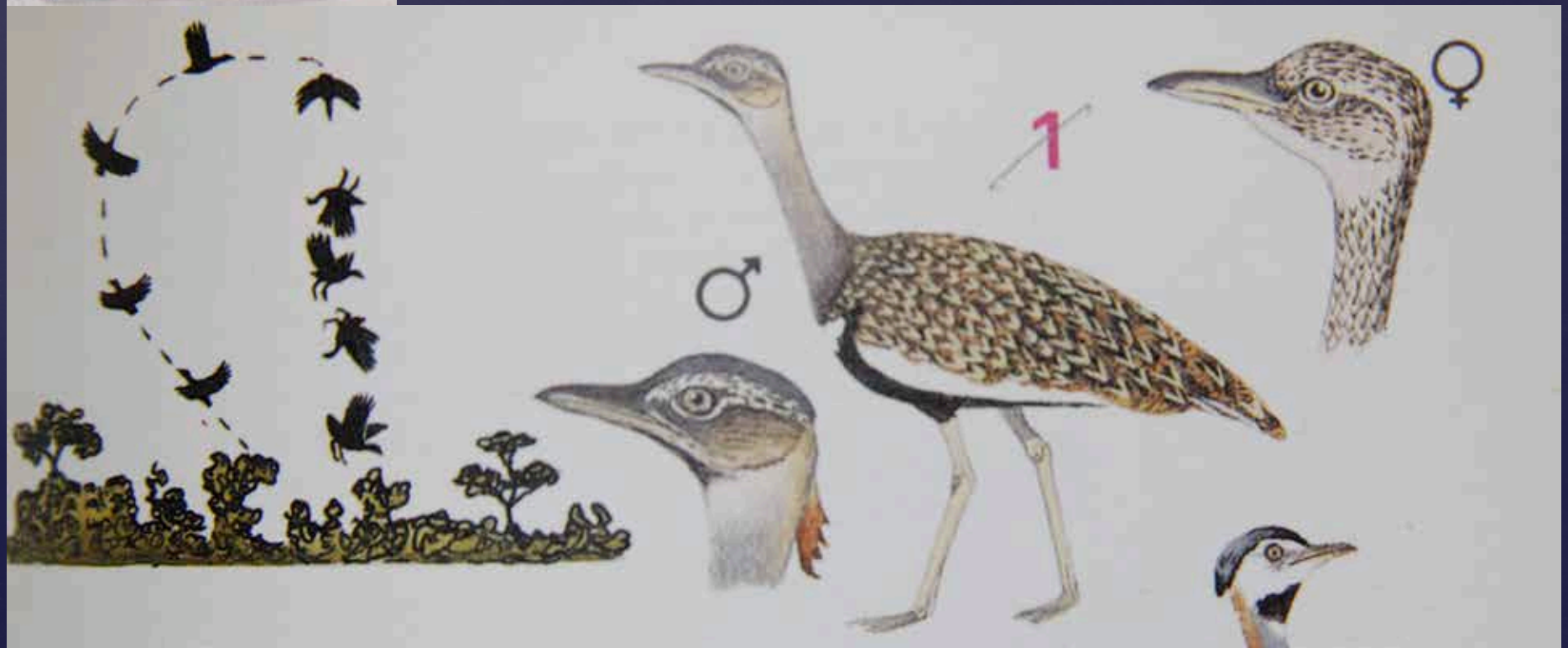
ガイは、おれは石のように空から落ちることができる、と自慢した。カーは信じなかった。ガイはやって見せたが、地面に激突する直前で回転し、足から着地した。

カーもやってみたが、頭から固い砂の上に激突し、頭の骨が割れた。
だから今でもカーは平たい頭をしている

以下、訳からは指小辞を省く
- ǀkoago-bì　～小僧
- ǀkoago-sì　～嬢ちゃん

In summer, male flies steeply upwards to about 30 m and then tumbles as though shot. [p. 88]

雄の求愛行動であるらしい



ホロホロチョウ ǂxane とクロエリノガン　‖kàaの受難

　カネの夫婦とカ　ーの夫婦が同じキャンプに住んでいた。夫二人は遠くに猟に行き、人食いに殺された。人食い2人は、それぞれの皮を着て、家に着いた。

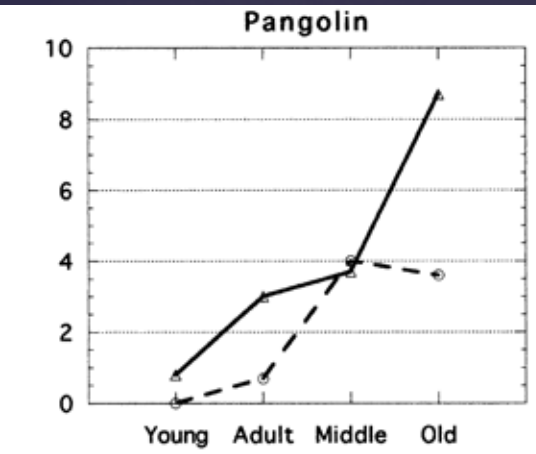
　カーの妻は、人食いを夫だと信じ、与えられた肉を食った。それが夫の肉だとも知らずに。カネの妻は、怪しみ、食わなかった。

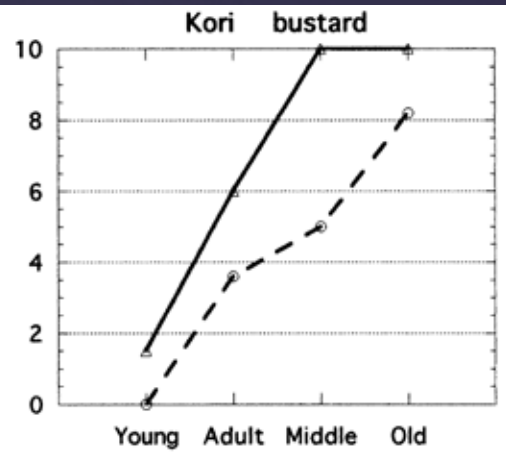
　深夜、子どもたちにウンコをさせるふりをして脱出。カーが子どもたちを置いてきたので、カネは詰った。

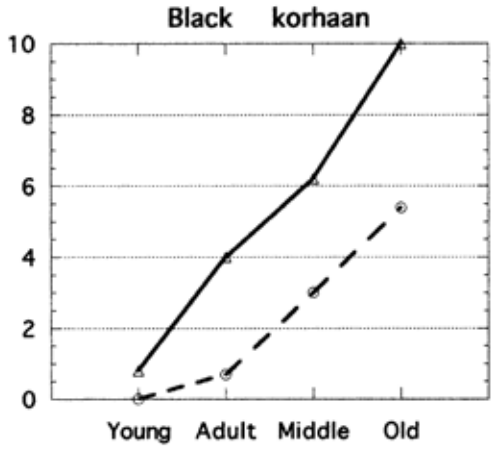
　カーはパニックになって家に駆け戻り、殺された。子どもたちも皆殺しにされた。

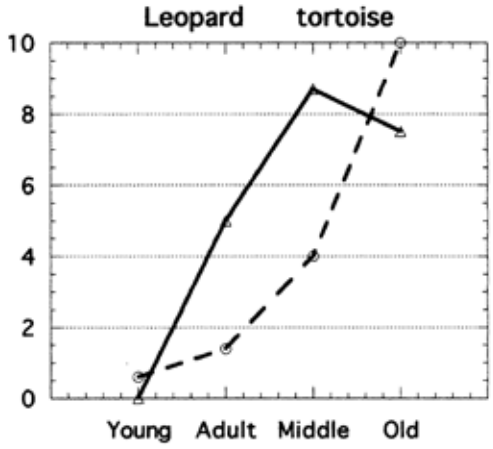
　カネはたくさんの子を連れて親族のキャンプへ逃げ込んだ。カネの母は、高らかに自慢の歌を歌った。カーの母（オバ？）は哀れっぽく嘆きの歌を歌った。

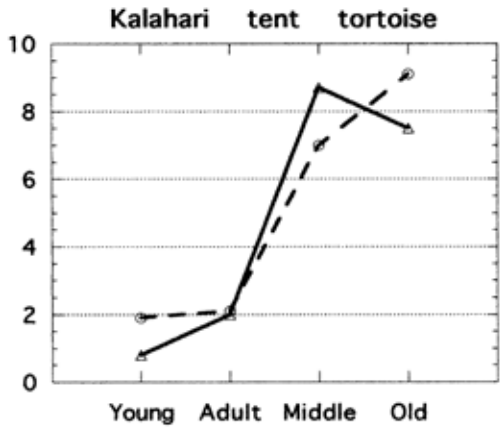
somo 老人と幼児の肉　（原義は「珍味」）

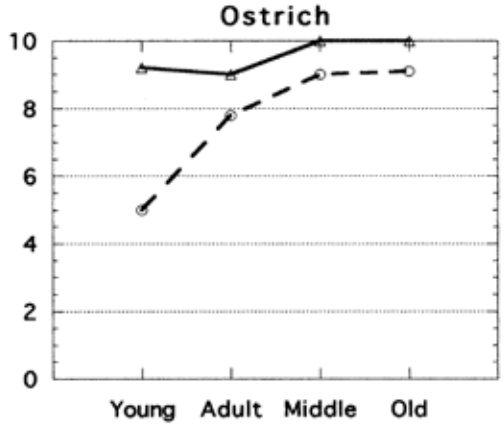












（肉を）食う kx’óo
食べる ǂʔoõ

～を食うと病気になる！nāã
食わないもの ！nāã-xo

食物禁忌の代表：
〈ショモ〉
センザンコウ
アフリカオオノガン
クロエリノガン
ヒョウガメ
カラハリテントガメ

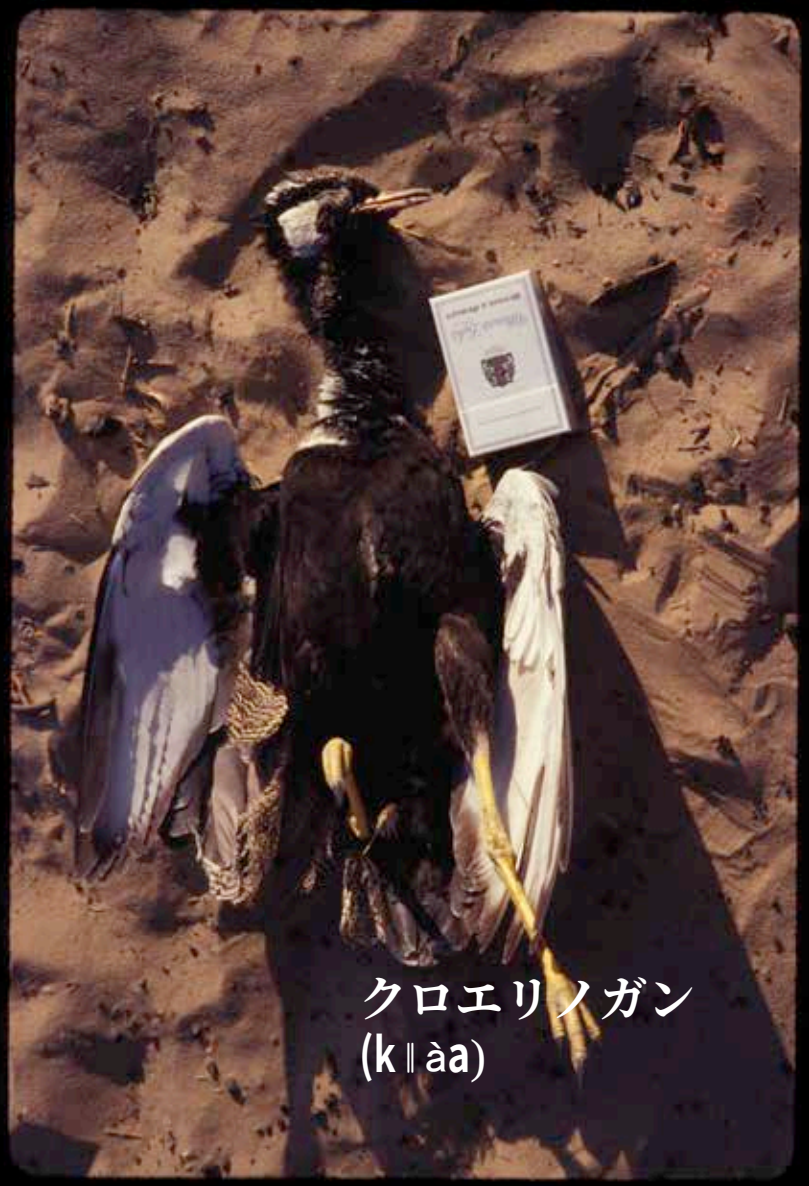
間身体性から
動物と人間の境界が揺らぐ
ことへ続く

Meat for elders and infants

(*somo*)

アフリカオオノガン (g‡eu)

ヒョウガメ (g‖oe)



クロエリノガン
(k‖àa)

!nǎre（感づく）の意味論—間身体性—

（1）àbi　chú　khā ri-sà　!nǎre
PRN　PAST　酒-PGN　酔う
(3/m/sg/nom)　(yesterday)　-(3/f/sg/acc)
「彼は昨日酒に酔った」

（2）!gáe˜-bì cì ‖noe-sì ‖gâ e-sà !nǎre 「スティーンボックは月の光に酔うものだ」

（3）Cherexo-m̀ kà ‖goe-mà kx'óo-sà Thabuka-bì kì !nǎre yá haci !xâ a
「キレーホがヒョウガメを食ったことをタブーカは感づき、しきりと下痢した」
青年CherexoとThabukaは親族（平行イトコ）。キレーホは抜け駆けして〈ショモ〉を食い、その鍋の口をタブーカに向けて倒す。キレーホは無事でタブーカが下痢する

（4）!gáe˜-bì ʔusi khô e-m̀ tsǔu-sà !nǎre ne cua àm-kà !gúi-siwa ǂkāã
「スティーンボックは（明日から）人の糞を嗅ぎつけて彼の罠に入らぬだろう」
罠猟が不調な男が、自分に肉を分けてくれぬキャンプ仲間の食った獲物の骨片の上に糞をする

（5）ci ǀnhoãʔo-sì kì haci gyī o, môõ, àm hee˜ !noa-mà ǀqx'oõ-sà èsi kì !nǎre
「おれの脇の下がしきりと燃えていた。見ろ！彼がダイカーを殺すことを予感したんだ」
キャンプ仲間の年長者が獲物を担いで帰ってきたのを見て
ǀka̰˜be-bì kx'áe 「小腸が鳴る」ことも予感を表わす

c ǐmaとは何か

◎ 調査助手の釈義：エランドの踊り（初潮儀礼）をしている年長の女や、月経中の女が男を「呪詛する」（|xoi）と、男は死にそうなほどひどい目にあう。

提示された例文：‖g ǎ eko-sì-kà *c ǐma*-sì cia semaka ¦qx’oõ
「女の人のキマがおれをあやうく殺すところだった」

¦qx’áo-‖ku ¦nè *cima*-sà ci-¦xàe koam
「ヘビどもが昨夜おれにかけられた女のキマを感づいた=おれを咬もうとした」
→これらに基づくスガワラの翻訳　　「女のもつ魔力？」

◎中川裕の釈義：女性が!nāã-xo [のタブー]を破ったためにpaaxo〔咬むもの、猛獣や毒蛇〕が人を襲うこと

cĩmaの内包とは何か？

それは女に特有な、男を害する力である？
それは女の月経をもつという属性と関わる
それは呪詛と似ている（男が呪詛してもgoõwahaである）
それは食物タブーを破ることと関連している

だが、食物タブーを破ることがcĩmaとなるのは、女に限ったことではない
それは発狂と関係している

cĩmaの内包を確定することはできない

　われわれの生活世界においては、ある概念の内包を共有することなく、つつがなくコミュニケーションが進行している

討論

・*c ĭma*に関わるインタビューの真の驚きは、デウ〔アフリカオオノガン〕の「真似」（*sere*）のなかにこそある。羽ばたきと滑空。*c ĭma*という語の使用を可能にする生活世界は、「自然に埋没している」

・デウもカーもガイも言語ゲームの外に〈実在〉する。それは単に指示されるのではなく、身体によって演じられる。

・「変身」というライトモティーフは、外延の画定された文化表象ではなく、不特定の文化表象を相互に結び合わせる間身体的な動機づけではなかろうか。[*cf.* カネッティ1971]

遠く離れた地に住んでい過去のブッシュマンも…

ブッシュマンにおける予感と変身

一、息子は父親の古傷を、身体の同じ場所に感じ、父が訪ねてくることを予感する。
二、夫は、妻が子どもを負う皮ひもを、自分の肩に感じる。
三、駝鳥は〈しらみ〉に食われたとき、首のうしろを足で掻く。自分の首にそれを感じ、駝鳥が近くにいることを知る。
四、自分の顔にスプリングボックの額から鼻にかかる黒い縞を感じる。
五、彼が殺すであろうスプリングボックの血を自分の背中とふくらはぎに感じる。

Bleek, W. H. J. and Lloyd, L. C. 1911 *Specimens of Bushman Folklore*. London: Geo. Allen.